令和６年度　事業所における自己評価総括表（公表）

放課後等デイサービス

○事業所名	本別町児童発達支援センターよつば			
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22人	（回答者数）	13人
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4人	（回答者数）	4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1対1での個別療育のため、個人に合わせて丁寧に支援を行うことが出来ている。 年に数回、グループ療育を実施し、小集団での関りや異年齢との関わりの経験を持つようにしている。	着席しての療育と運動療育をバランスを考えて組合わせ、メリハリのある活動を行っている。 グループ療育では、工作やゲームを行う中で、他者とコミュニケーションを取る経験を大切にしている。	子ども達それぞれに合わせた様々な経験を提供できるよう、教材研究や教材作りを行っていく。 個別療育で身に付けたものを、小集団の中で実践できる機会を増やしていく。
2	外部機関の専門職（言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・心理士）に関わってもらい、療育や相談の充実を図ることができている。	事前、事後のカンファレンスを行い、観察や相談の様子を情報共有している。継続的な関わりを持ってもらうことで、観察や相談による効果の検証ができている。	観察や相談による結果をその後の療育に活かし、専門職を利用したことによる効果の説明も保護者にしっかりと伝えていく。
3	職員数は少ないが、その分コミュニケーションが取りやすく、情報の交換や共有を十分に行うことができている。 また、保健や福祉の関係機関とも、定期的に会議を行い連携を図ることができている。	日々、事務作業の合間に、療育の内容や困り、新しい情報の共有などを行うようにし、会話を多くすることで、職員間の関係を良好に保っている。他の機関との連携により、支援の役割分担がスムーズである。	気軽に話ができる職場環境を心がけ、全体の情報を共有していく。事例の検討も行い、療育の課題について話す機会も作っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	茶話会を開催し、保護者同士が話し合える場の提供はしているが、参加者が少ない状況。	多くの保護者が集まれる日程の設定が難しいことと、保護者にとって、行事への魅力が不十分なのだと思う。	保護者が魅力を感じるような内容の行事を考えていく。
2	室内の運動スペースが狭く、活動が制限されてしまう。	既存の建物を利用して運動スペースを作ったため、拡張や別室の利用は難しい。	事業所近くの公園を活用しながら、年齢に合わせた運動が行えるようにしていく。
3	一部の保護者への療育内容の周知が不足している。	送迎時の報告や、連絡帳を使っての報告などを行っているが、徒歩で通所している家庭の保護者とは対面で話す機会が少ない。	療育内容の周知が、どの家庭にも偏りなく行えるよう、方法の検討を行う。